

# 「少子化社会に関する国際意識調査」の概要

- 1 調査の目的 本調査は、少子化社会対策の効果的・効率的な推進に資するため、我が国と諸外国の国民の意識とその変化を調査し、国際比較を通じて我が国の特性を把握することを目的とする。
- 2 調査事項 「結婚」「出産」「育児」「社会的支援」「生活」にかかる意識または実態に関する事項
- 3 調査対象国 日本、韓国、アメリカ、フランス、スウェーデンの5か国  
調査対象者 20歳から49歳までの男女
- 4 調査時期 平成17年(2005年)10月～12月

## 5 調査方法

### (1) 調査方法

各国とも1,000サンプル回収を原則とし、調査員による個別面接調査を行った。

### (2) 標本抽出方法等

	標本抽出法	回収数	使用言語
日本	層化二段無作為抽出法	1,115	日本語
韓国	割当法	1,004	韓国語
アメリカ	割当法	1,000	英語
フランス	割当法	1,006	フランス語
スウェーデン	割当法	1,019	スウェーデン語

### (3) 調査実施機関

本調査の実査及び集計は、次の調査機関によって実施した。

日本 社団法人 新情報センター

韓国 Gallup Korea Poll Ltd.

アメリカ Kane, Parsons & Associates, Inc.

フランス Synovate

スウェーデン International Marketing Research Institute

### (4) 企画委員会委員

本調査の企画及び分析にあたっては、企画委員会を組織し、次の各氏の協力を得た。

委員長 阿藤 誠 (早稲田大学人間科学学術院特任教授)

委員(50音順)

岩澤美帆 (国立社会保障・人口問題研究所人口動向研究部主任研究官)

柏女霊峰 (淑徳大学総合福祉学部教授)

白波瀬佐和子 (東京大学大学院人文社会系研究科助教授)

高橋美恵子 (大阪外国語大学外国語学部助教授)

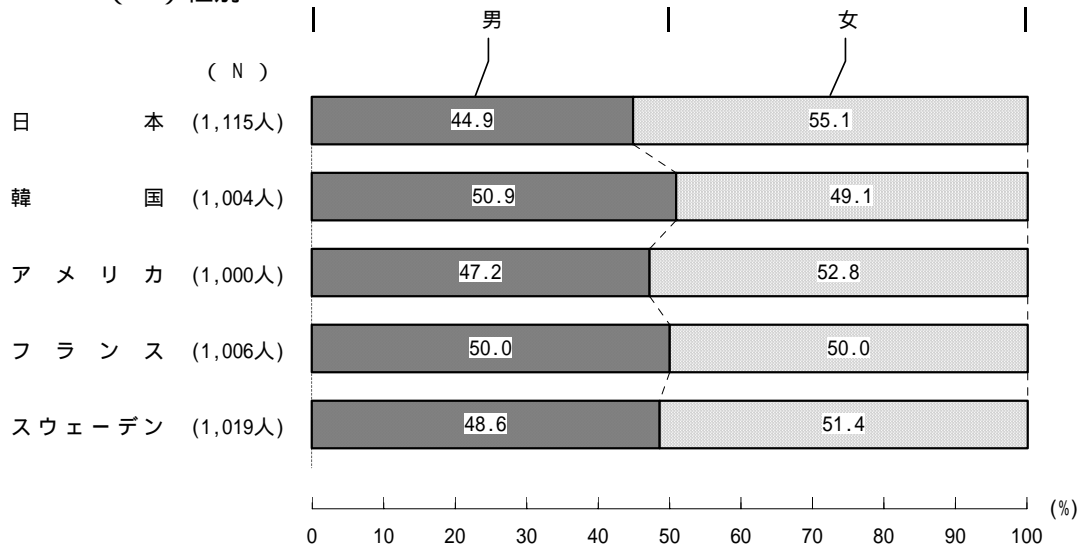
永瀬伸子 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授)

森川美絵 (国立保健医療科学院福祉サービス部研究員)

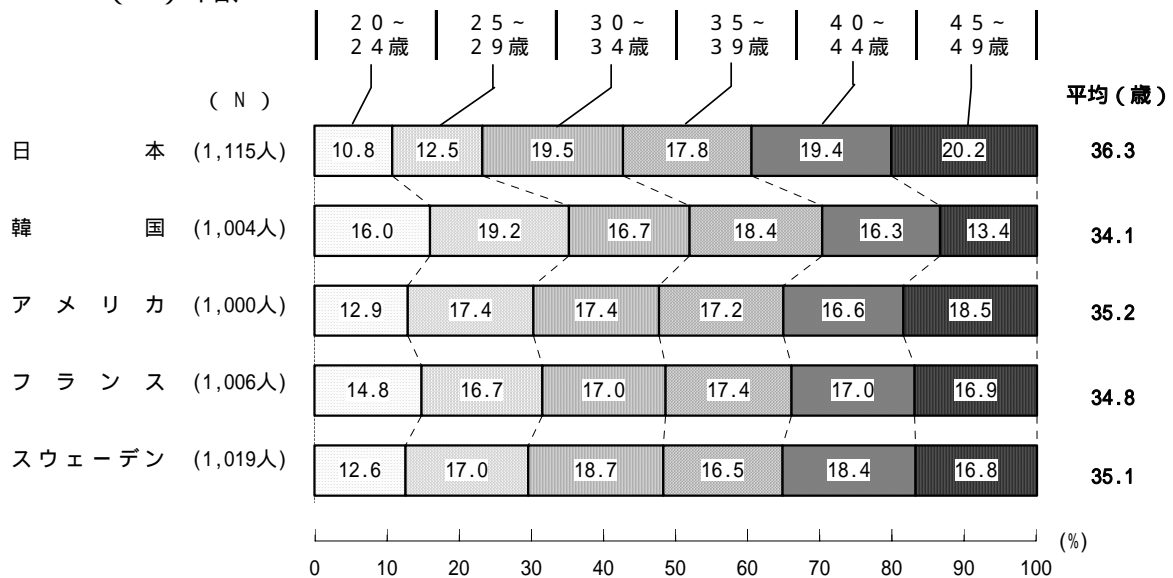
山田昌弘 (東京学芸大学教育学部教授)

## 6 調査対象者の状況

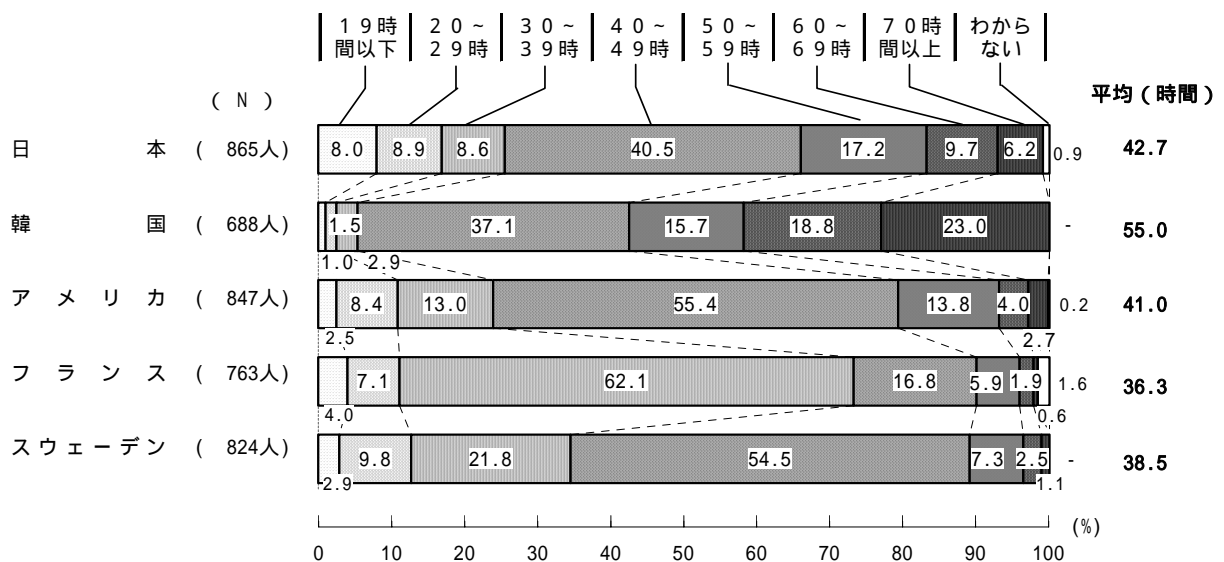
### (1) 性別



### (2) 年齢



### (3) 本人の就労状況



# 調査結果の概要(抜粋)

## 結婚について

### (1) 結婚に対する考え方

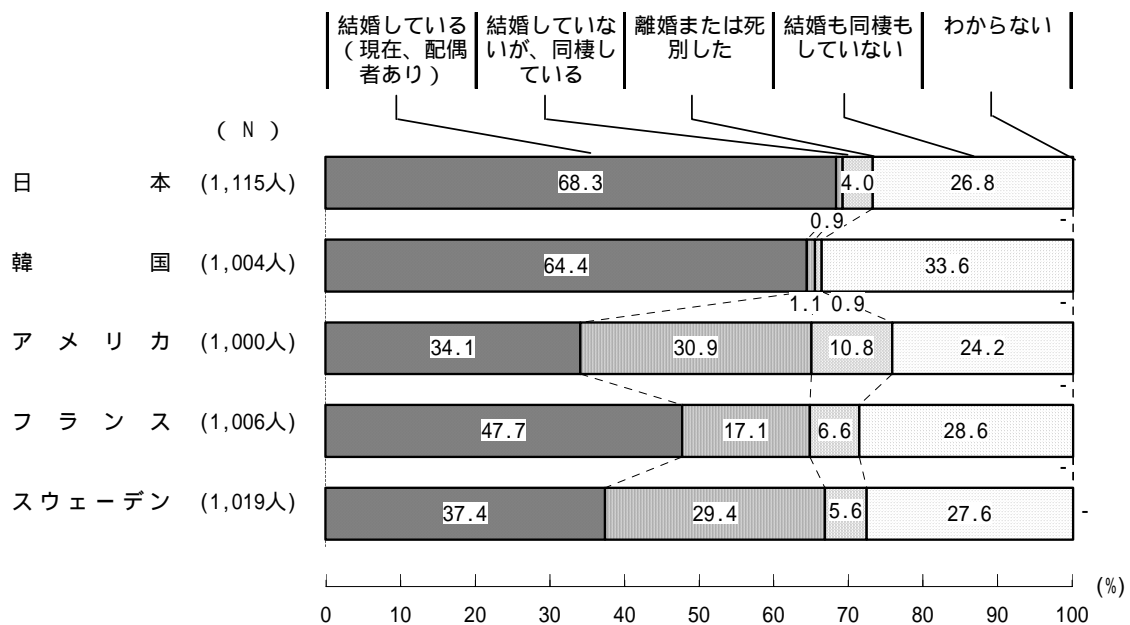
#### 1 結婚の有無(現状)

結婚しているかどうか聞いたところ、日本では、「結婚している(現在、配偶者あり)」が68.3%を占めている。

各国比較でみると、「結婚している(現在、配偶者あり)」の割合は、日本以外では、韓国(64.4%)が高い。アメリカ(30.9%)、スウェーデン(29.4%)では、「結婚していないが、同棲(特定の相手と結婚の届け出なしで一緒に生活すること)している」の割合が3割前後となっている。

「結婚している」と「同棲している」をあわせると、各国ともほぼ同じ割合となる。(図1-1)

図1-1



### 3 初婚年齢（初めて同棲した年齢）

結婚または同棲の経験者に、最初に結婚をしたのは何歳の時か、また、最初に同棲をはじめたのは何歳の時かそれぞれ聞いたところ、日本では、初婚年齢は「25～29歳」（44.7%）が最も高く、「20～24歳」（33.6%）がこれに続いている。（図1 - 3）

また、同棲については、「同棲したことはない」（85.8%）が圧倒的に高い。（図1 - 4）

各国比較でみると、韓国では、初婚年齢は「25～29歳」（54.8%）が日本以上に高く、同棲も「同棲したことはない」（93.1%）が日本以上に高くなっている。（図1 - 3，4）

スウェーデンも、初婚年齢は「25～29歳」が最も高くなっているが、アメリカとフランスでは、「20～24歳」が最も高くなっている。（図1 - 3）

はじめて同棲した年齢は、アメリカ、スウェーデン、フランスでは、「20～24歳」が最も高くなっている。（図1 - 4）

図1 - 3（初婚年齢）

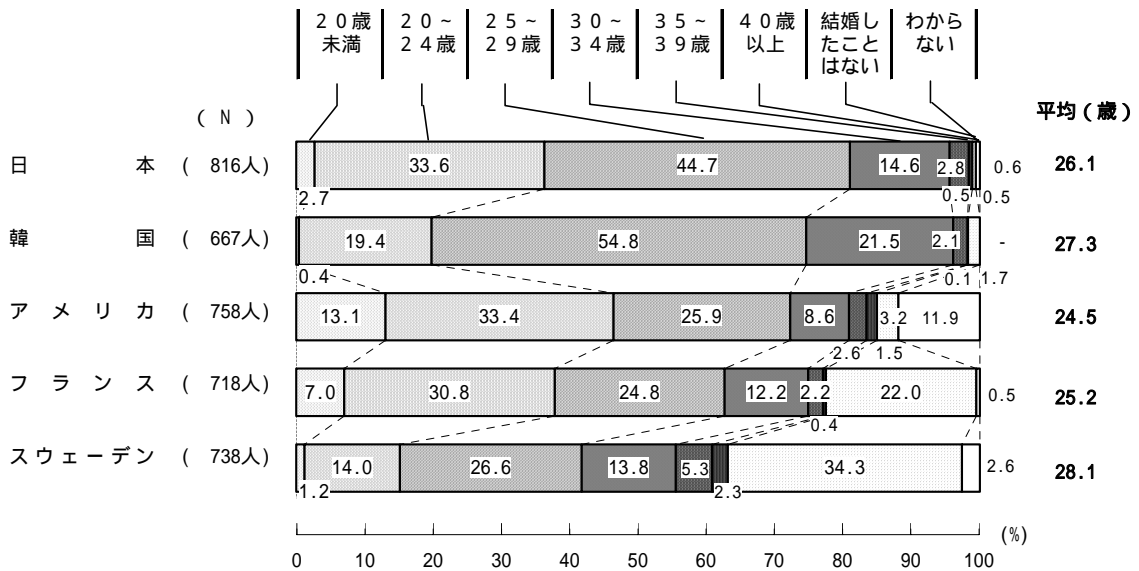
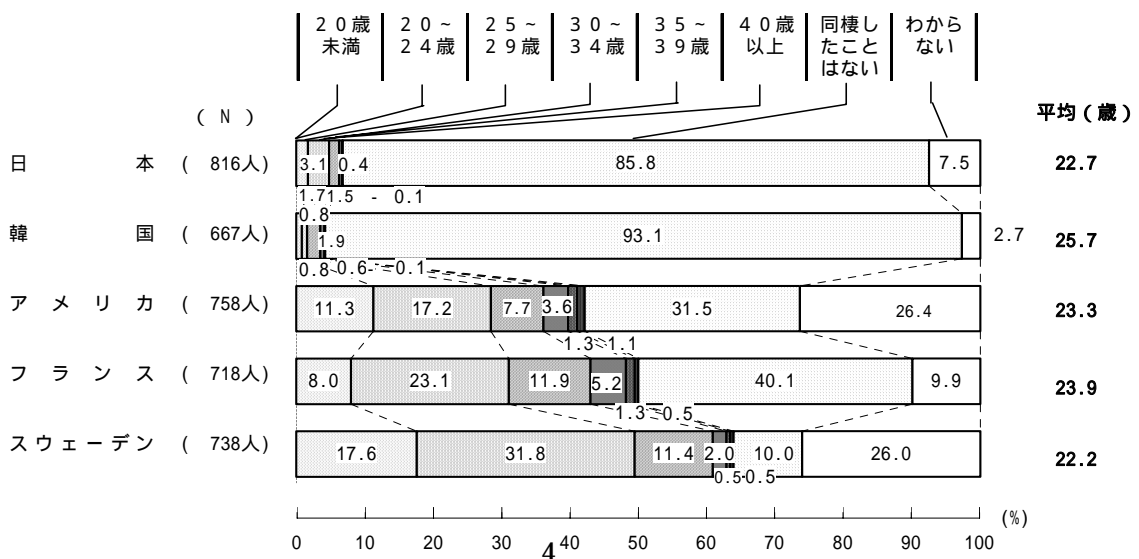


図1 - 4（初めて同棲した年齢）



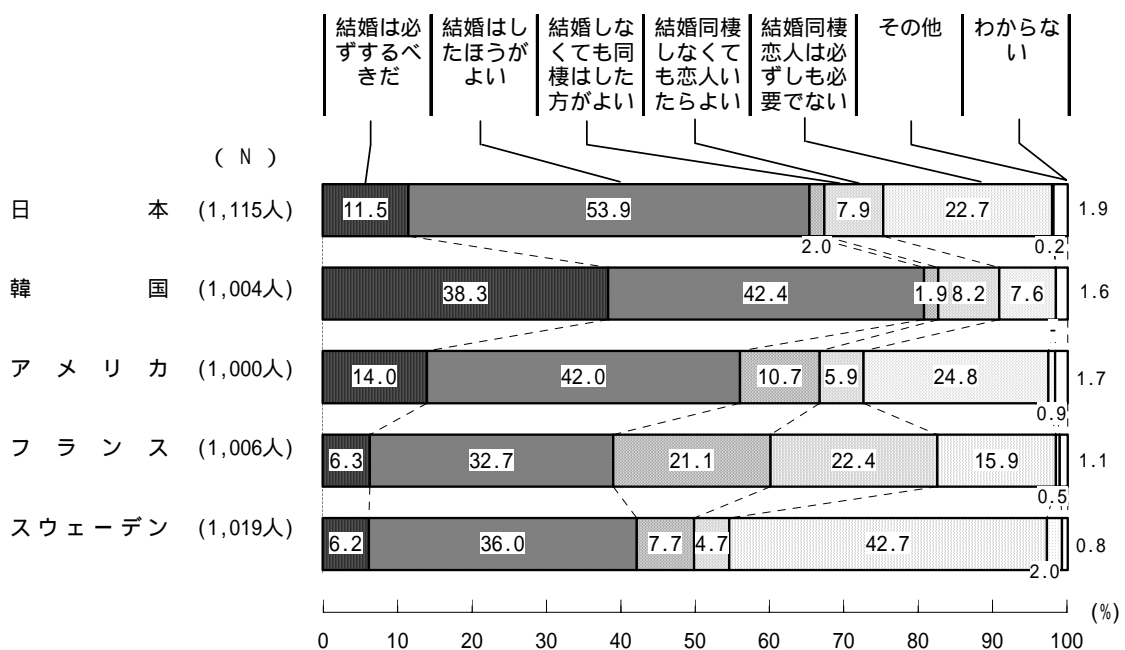
#### 4 結婚に対する考え方

人生における結婚や同棲の必要性に対する考え方について聞いたところ、日本では、「結婚はしたほうがよい」(53.9%)が最も高く、「結婚は必ずすべきだ」(11.5%)とあわせて65.4%は結婚に肯定的である。

各国比較でみると、結婚に対する肯定的な意見(「結婚は必ずすべきだ」+「結婚はしたほうがよい」)が過半数を占めている。特に、韓国では、「結婚は必ずすべきだ」が約4割を占めている。スウェーデンでは、結婚に対する肯定的な意見と、「必ずしも必要でない」とする意見がほぼ同じ割合となっている。

フランスでは、「結婚しなくても同棲はした方がよい」、「恋人がいればよい」など多様な意見が見られる。(図1-5)

図1-5



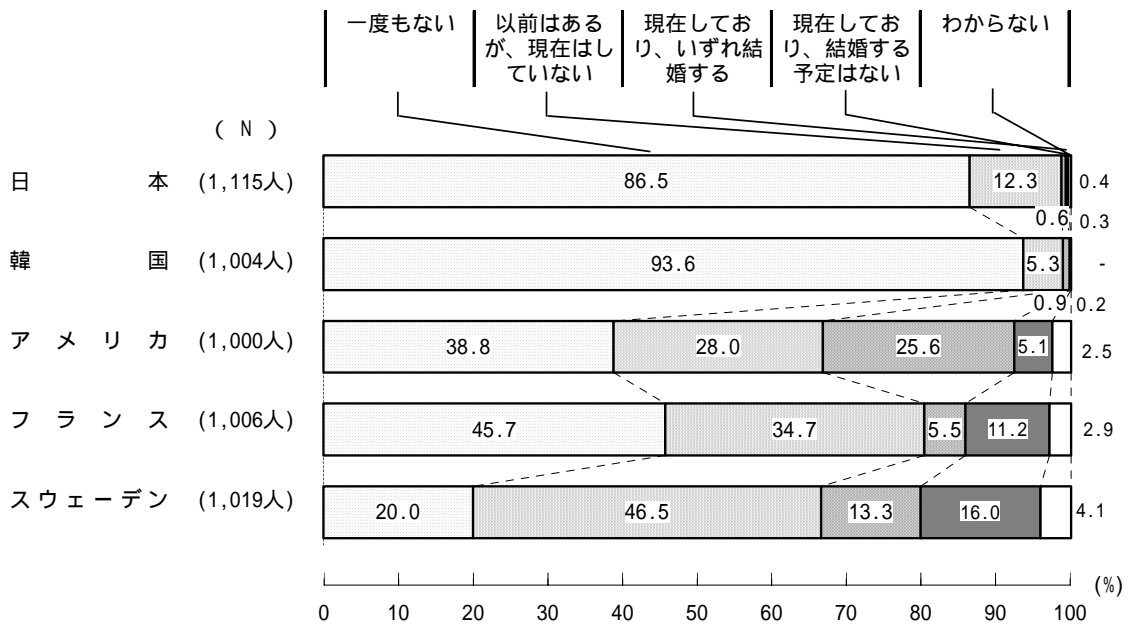
## (5) 同棲の経験の有無

これまでに同棲を経験したことがあるか聞いたところ、日本では、「一度もない」が86.5%と最も高くなっている。

各国比較でみると、韓国は日本よりもさらに「一度もない」(93.6%)が高くなっている。

一方、同棲経験が高いのは、スウェーデン(75.9%)、アメリカ(58.7%)、フランス(51.4%)の順となっている。(図1-8)

図1-8



## (6) 結婚と自立について

### 結婚生活を始める際の収入

今日の社会で結婚生活を始める際には、二人でいくら位の月収（税・社会保険料控除後の手取り収入）が必要か聞いたところ、日本では、「20万円以上30万円未満」（45.5％）が最も高くなっている。

各国比較でみると、韓国では、日本同様「20万円以上30万円未満」が最も高く、アメリカでは「50万円以上70万円未満」（26.5％）、スウェーデンでは「30万円以上40万円未満」（35.7％）がそれぞれ最も高くなっている。

フランスでは、「特に収入は関係ない」（24.9％）が最も高くなっている。（表1 - 4）

表1 - 4

(%)

	全 体	10万円 未満	10万円 以上 20万円 未満	20万円 以上 30万円 未満	30万円 以上 40万円 未満	40万円 以上 50万円 未満	50万円 以上 70万円 未満	70万円 以上 100万 円未満	100万 円以上	特に収入 は関係な い	わからな い
〔国 別〕	(N)										
日 本	1,115	-	6.9	45.5	32.4	9.9	3.1	0.4	0.3	0.5	1.0
韓 国	1,004	0.5	16.1	37.2	29.4	10.4	4.0	0.6	0.1	1.7	-
ア メ リ カ	1,000	0.2	3.1	11.1	18.1	18.4	26.5	9.3	5.8	2.2	5.3
フ ラ ンス	1,006	0.2	4.1	23.3	21.8	12.5	5.2	2.6	0.4	24.9	5.1
ス ウ ェ ー デ ン	1,019	0.3	4.6	20.1	35.7	25.5	10.0	1.5	0.8	0.3	1.2

# 出産について

## (1) 子どもを持つことの方

### 1 子どもを持つことに対する考え方

自分の子どもをもつことに対して、どのように考えているか聞いたところ、日本では、「子どもをもつことは自然なことである」(68.5%)が最も高く、次いで「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」(59.7%)が続いている。

各国比較でみると、アメリカ、フランスでは、日本同様「子どもをもつことは自然なことである」が最も高く、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が2番目に高くなっている。

韓国でも、「子どもをもつことは自然なことである」が最も高くなっているが、2番目に高い項目は、「子どもは夫婦関係を安定させる」である。

スウェーデンでは「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が最も高く、次いで「子どもをもつことは自然なことである」の順となっている。(表2-1)

表2-1

(3つまでを選択)

順位		(%)				
国名		1	2	3	4	5
日	本 1115	子どももつことは自然なことである 68.5	子どもがいると生活が楽しくなる 59.7	好きな人の子どももちたいからもつ 21.9	子どもは夫婦関係を安定させる 21.5	自分の子孫を残すことができる 21.2
韓	国 1004	子どももつことは自然なことである 85.1	子どもは夫婦関係を安定させる 46.1	子どもがいると生活が楽しくなる 43.5	自分の子孫を残すことができる 22.6	経済的な負担が増える 19.9
ア	メ リ カ 1000	子どももつことは自然なことである 63.0	子どもがいると生活が楽しくなる 60.6	好きな人の子どももちたいからもつ 35.4	自分の子孫を残すことができる 12.7	子どもは老後の支えになる 10.0
フ	ラ ン ス 1006	子どももつことは自然なことである 71.6	子どもがいると生活が楽しくなる 58.6	好きな人の子どももちたいからもつ 47.2	自分の子孫を残すことができる 22.7	子どもは夫婦関係を安定させる 15.2
ス	ウェ ー デン 1019	子どもがいると生活が楽しくなる 76.8	子どももつことは自然なことである 58.4	好きな人の子どももちたいからもつ 54.1	子どもは老後の支えになる 13.6	子どもは将来の社会の担い手となる 10.5



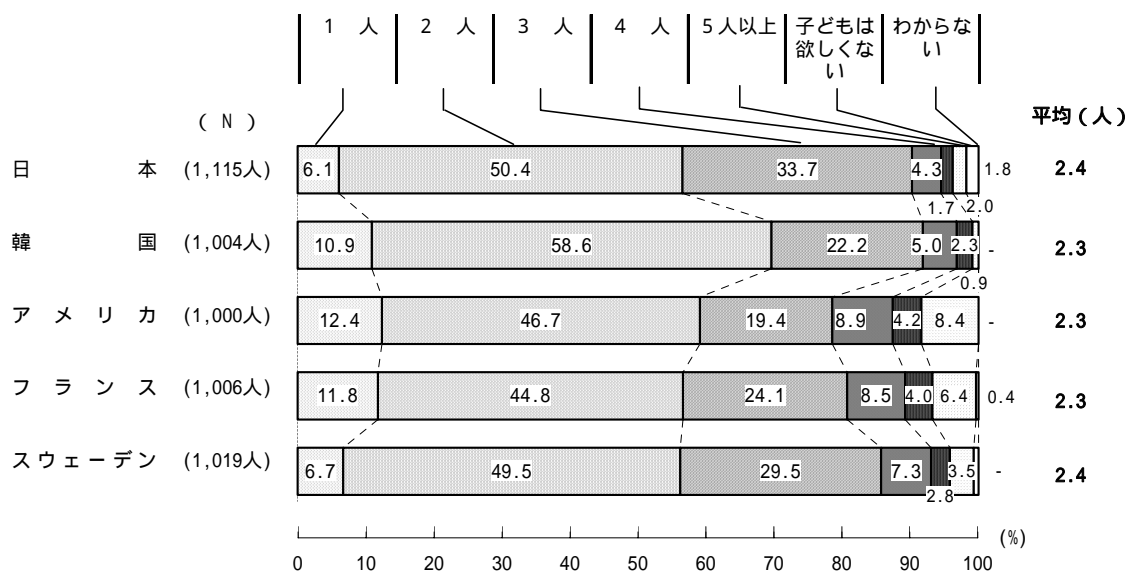
## (2) 子どもの人数

### 1 ほしい子どもの数

全部で何人の子どもが欲しいか聞いたところ、日本では、「2人」が50.4%と最も高く、次いで「3人」(33.7%)、「1人」(6.1%)、「4人」(4.3%)となっている。

各国比較でも、「2人」が最も多く、次いで「3人」の順となっている。(図2-2)

図2-2

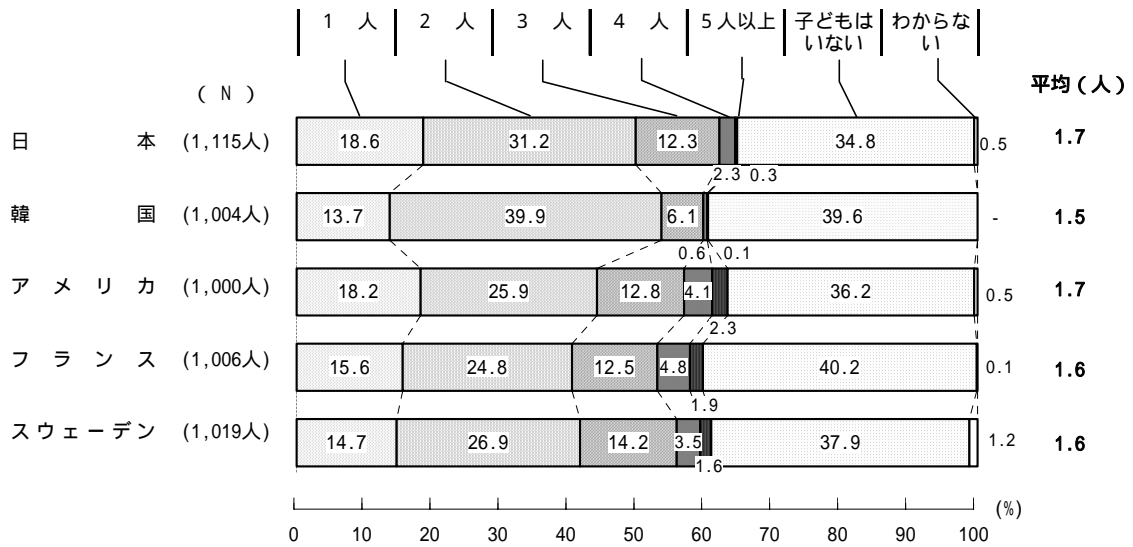


## 2 現在の子ども数

養子を含む実際の子ども数を聞いたところ、日本では、「子どもはいない」が34.8%と最も高く、次いで「2人」(31.2%)、「1人」(18.6%)、「3人」(12.3%)となっている。

各国比較でみると、フランス、スウェーデン、アメリカでは、日本同様「子どもはいない」が最も高く、次いで「2人」が高くなっているが、韓国では、「2人」(39.9%)と「子どもはいない」(39.6%)とほぼ同じ割合となっている。(図2 - 3)

図2 - 3

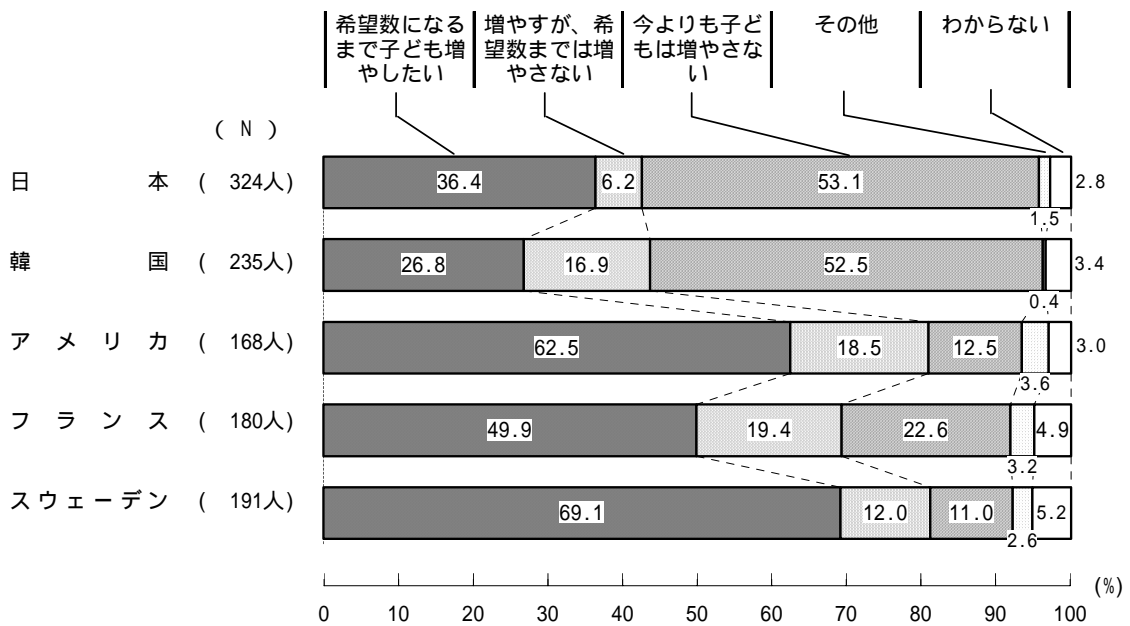


### 3 さらに子どもを増やしたいか

ほしい子どもの数より実際の子どもの数が少ない人に、今よりも、子どもを増やしたいと思うか聞いたところ、日本では、「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」（53.1%）が最も高くなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「今よりも子どもは増やさない、または、増やせない」が5割を超えているのは、韓国のみ（52.5%）で、他は「希望する子ども数になるまで子どもを増やしたい」とする割合が最も高くなっている。（図2 - 5）

図2 - 5



#### 4 さらに子どもを増やしたくない理由

希望する数まで、または今よりも子どもを増やさない、または、増やせない理由は何か聞いたところ、日本では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(56.3%)が最も高く、次いで「自分または配偶者が高齢で、産むのがいやだから」(31.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(68.2%)が7割近くを占め、圧倒的に高くなっている。

アメリカでも「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(30.8%)が最も高いが、2位の「健康上の理由から」(25.0%)との差は少ない。

スウェーデンとフランスでは、「高齢で、産むのがいやだから」、「健康上の理由から」、「配偶者が望まないから」が上位を占めており、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」は低くなっている。(表2 - 2)

表2 - 2

(いくつでも選択)

順位		(%)				
国名		1	2	3	4	5
日本	192	子育てや教育にお金がかかりすぎる 56.3	高齢で、産むのがいやだから 31.8	健康上の理由から 15.1	自分の仕事に差し支えるから 13.5	家が狭いから 10.9
韓国	163	子育てや教育にお金がかかりすぎる 68.2	高齢で、産むのがいやだから 32.2	子どもがのびのび育つ社会でない 16.6	これ以上育児の負担に耐えられない 16.3	自分の仕事に差し支えるから 13.7
アメリカ	52	子育てや教育にお金がかかりすぎる 30.8	健康上の理由から 25.0	欲しいけれども妊娠しないから 19.2	配偶者が望まないから 17.3	高齢で、産むのがいやだから 15.4
フランス	76	健康上の理由から 31.2	配偶者が望まないから 23.1	高齢で、産むのがいやだから 19.8	子育てや教育にお金がかかりすぎる 13.3	その他 10.5
スウェーデン	44	高齢で、産むのがいやだから 40.9	健康上の理由から 20.5	配偶者が望まないから 20.5	これ以上育児の負担に耐えられない 13.6	欲しいけれども妊娠しないから 13.6

### ( 3 ) 婚外子について

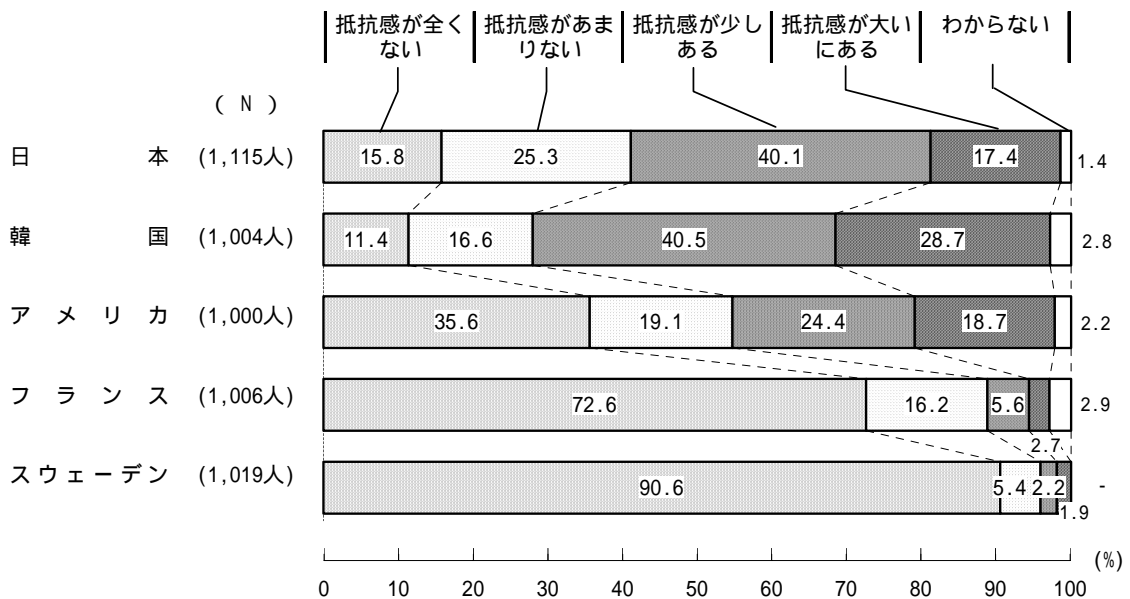
#### 1 婚外子を持つことに対する考え方

結婚していないカップルが、子どもをもつことに対して、どのように感じるか聞いたところ、日本では、「抵抗感が少しある」(40.1%)と「抵抗感が大いにある」(17.4%)を合わせた『抵抗感がある』が57.5%を占め、「抵抗感が全くない」(15.8%)と「抵抗感があまりない」(25.3%)を合わせた『抵抗感がない』(41.1%)を上回っている。

各国比較でみると、韓国では、日本と同じく『抵抗感がある』(「抵抗感が少しある」+「抵抗感が大いにある」)が69.2%と、『抵抗感がない』(「抵抗感が全くない」+「抵抗感があまりない」)を上回っている。

一方、スウェーデンでは、『抵抗感がない』が96.0%と極めて高く、フランス(88.9%)アメリカ(54.7%)でも『抵抗感がない』が『抵抗感がある』を上回っている。(図2-7)

図 2 - 7



# 育児について

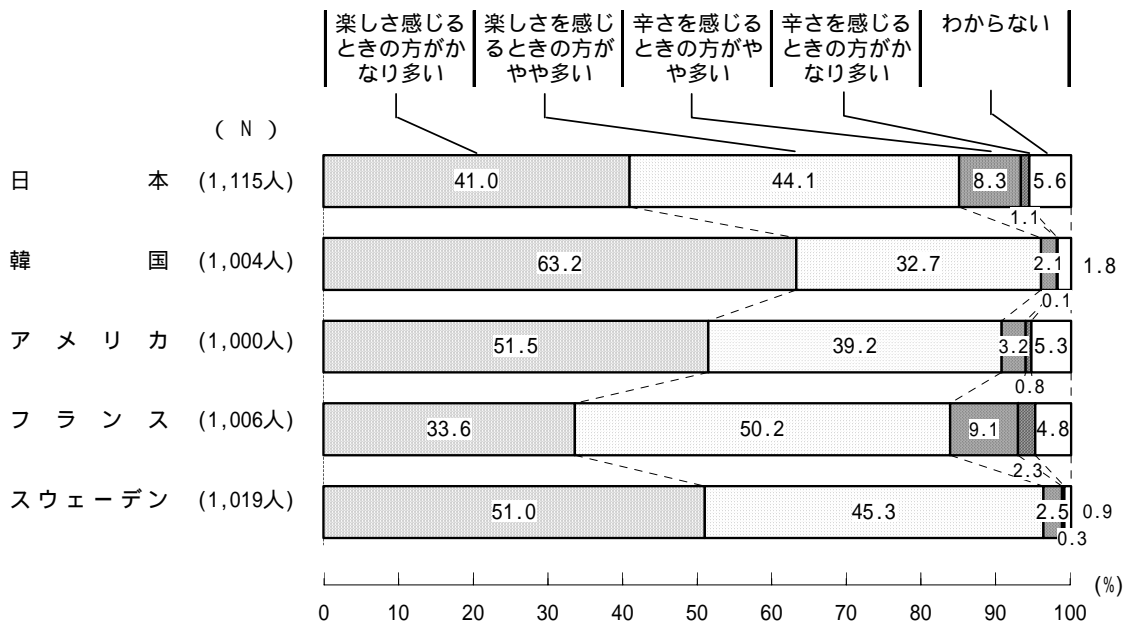
## (1) 育児に対する意識

### 1 子育てに対する楽しさ・辛さ

子育てに楽しさを感じるときが多いか、それとも辛さを感じるときが多いか聞いたところ、日本では、「楽しさを感じるときの方がかなり多い」(41.0%)と「楽しさを感じるときの方がやや多い」(44.1%)を合わせた『楽しさを感じるときの方が多い』が85.1%と高く、「辛さを感じるときの方がやや多い」(8.3%)と「辛さを感じるときの方がかなり多い」(1.1%)を合わせた『辛さを感じるときの方が多い』(9.3%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、いずれの国でも『楽しさを感じるときの方が多い』が8割から9割を占めている。(図3-1)

図3-1



### 3 子育てをして負担に思うこと

子育てをしていて、自分にとって負担に思うことはどんなことが聞いたところ、日本では、「子育てに出費がかさむ」(46.5%)が最も高く、次いで「自分の自由な時間が持てない」(42.4%)、「子どもが病気のと看」(36.3%)などとなっている。

各国比較でみると、いずれの国でも「子育てに出費がかさむ」が最も多くなっており、特に韓国では75.6%と他国に比べて際立って高い。

2位以下の項目をみると、韓国では日本と同様の傾向となっているが、スウェーデン、アメリカ、フランスでは、「自分の自由な時間が持てない」の割合は低くなっている。スウェーデン、アメリカでは、「子育てによる身体の疲れが大きい」が2位となっている。(表3 - 2)

表3 - 2

(いくつでも選択)

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日 1115	本	子育てに出費がかさむ 46.5	自分の自由な時間が持てない 42.4	子どもが病気のと看 36.3	子育てによる精神的疲れが大きい 29.2	子育てによる身体の疲れが大きい 23.8
韓 1004	国	子育てに出費がかさむ 75.6	自分の自由な時間が持てない 42.9	子どもが病気のと看 39.3	子育てによる精神的疲れが大きい 32.3	子育てによる身体の疲れが大きい 31.6
ア 1000	メ リ カ	子育てに出費がかさむ 59.2	子育てによる身体の疲れが大きい 38.5	子どもが病気のと看 33.1	自分の自由な時間が持てない 30.2	夫婦で楽しむ時間がない 25.2
フ 1006	ラ ン ス	子育てに出費がかさむ 40.8	子どもが病気のと看 37.0	子育てによる精神的疲れが大きい 29.7	子育てによる身体の疲れが大きい 26.9	自分の自由な時間が持てない 21.2
ス 1019	ウェ ー デン	子育てに出費がかさむ 59.8	子育てによる身体の疲れが大きい 59.1	子どもが病気のと看 55.3	子育てによる精神的疲れが大きい 33.6	仕事が十分にできない 29.2

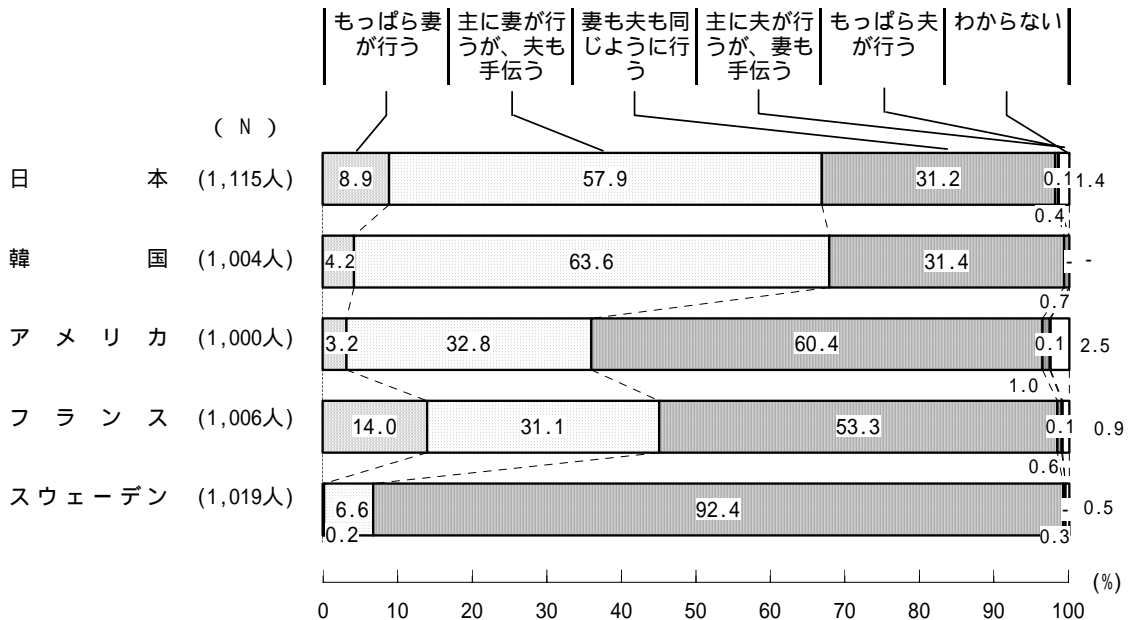
### (3) 育児を担う者

#### 1 就学前の子どもの育児における夫・妻の役割

小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割について聞いたところ、日本では、「もっぱら妻が行う」(8.9%)と「主に妻が行うが、夫も手伝う」(57.9%)を合わせた『主に妻が行う』が66.8%と高く、「主に夫が行うが、妻も手伝う」(0.4%)と「もっぱら夫が行う」(0.1%)を合わせた『主に夫が行う』(0.5%)を圧倒的に上回っている。また、「妻も夫も同じように行う」は31.2%となっている。

各国比較でみると、日本のように、『主に妻が行う』が高いのは韓国(67.9%)のみで、他は「妻も夫も同じように行う」が、アメリカ(60.4%)、フランス(53.3%)、特にスウェーデン(92.4%)で圧倒的に高くなっている。(図3-4)

図3-4





## 2 育児の中で、妻よりも夫の方が主に行っていること

子育て経験者に、小学校入学前の育児について、家庭の中で、夫が妻と同程度あるいは夫の方が主として行っている(行っていた)ことを聞いたところ、日本では、「入浴させる」(62.8%)は6割、「散歩など、屋外へ遊びに連れていく」(44.4%)、「家の中で、話しや遊び相手をする」(39.7%)は4割となっているが、日常のしつけや寝かしつけは2割となっている。

各国比較でみると、日本以外は「家の中で、話しや遊び相手をする」が最も多くなっている。スウェーデンではほとんどの項目が7～8割となっている。アメリカとフランスでも日常のしつけや寝かしつけが6割となっている。(表3-3)

表3-3

(いくつでも選択)

(%)

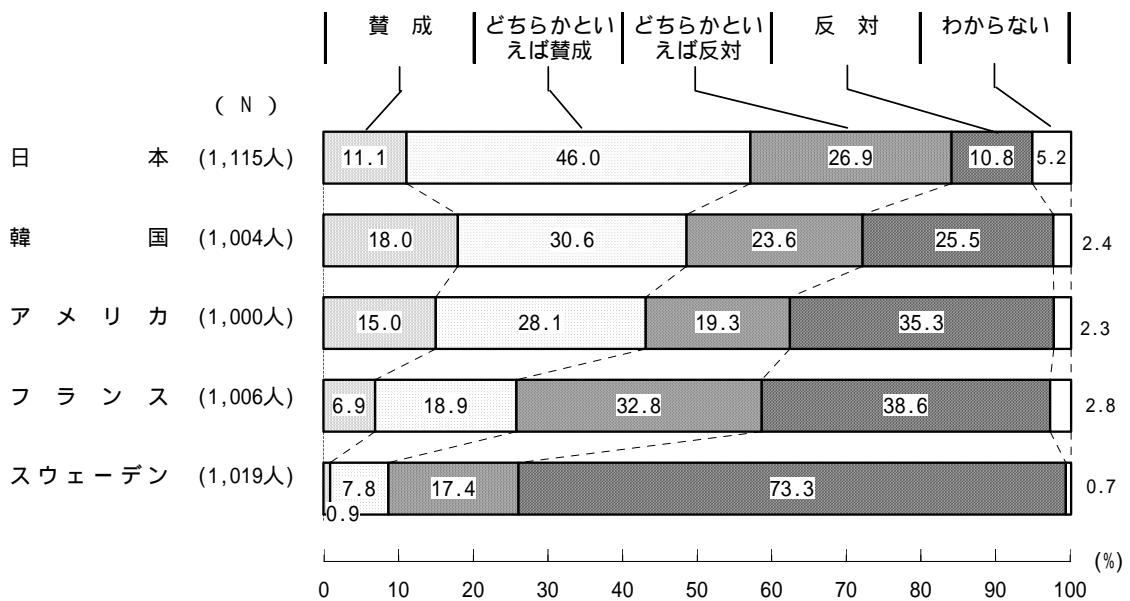
順位 国名	1	2	3	4	5
日本 721	入浴させる 62.8	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 44.4	家の中で、話しや 遊び相手をする 39.7	日常生活上のしつ け 20.8	寝かしつける 17.9
韓国 606	家の中で、話しや 遊び相手をする 61.4	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 54.6	入浴させる 50.1	おむつを取り換え る 46.5	食事の世話をす る 40.8
アメリカ 633	家の中で、話しや 遊び相手をする 67.5	日常生活上のしつ け 63.8	寝かしつける 59.4	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 57.0	食事の世話をす る 46.3
フランス 601	家の中で、話しや 遊び相手をする 70.8	寝かしつける 61.6	日常生活上のしつ け 61.4	食事の世話をす る 61.0	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 60.6
スウェーデン 621	家の中で、話しや 遊び相手をする 80.4	寝かしつける 77.3	おむつを取り換え る 75.5	入浴させる 73.6	散歩など、屋外へ 遊びに連れていく 73.3

### 3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どのように考えるか聞いたところ、日本では、「賛成」(11.1%)と「どちらかといえば賛成」(46.0%)を合わせた『賛成』が57.1%を占め、「どちらかといえば反対」(26.9%)と「反対」(10.8%)を合わせた『反対』(37.7%)を上回っている。

各国比較でみると、日本以外では、アメリカと韓国で『賛成』と『反対』がおおむね二分しているものの、スウェーデンとフランスでは、『反対』が『賛成』を圧倒的に上回っている。(図3 - 5)

図3 - 5



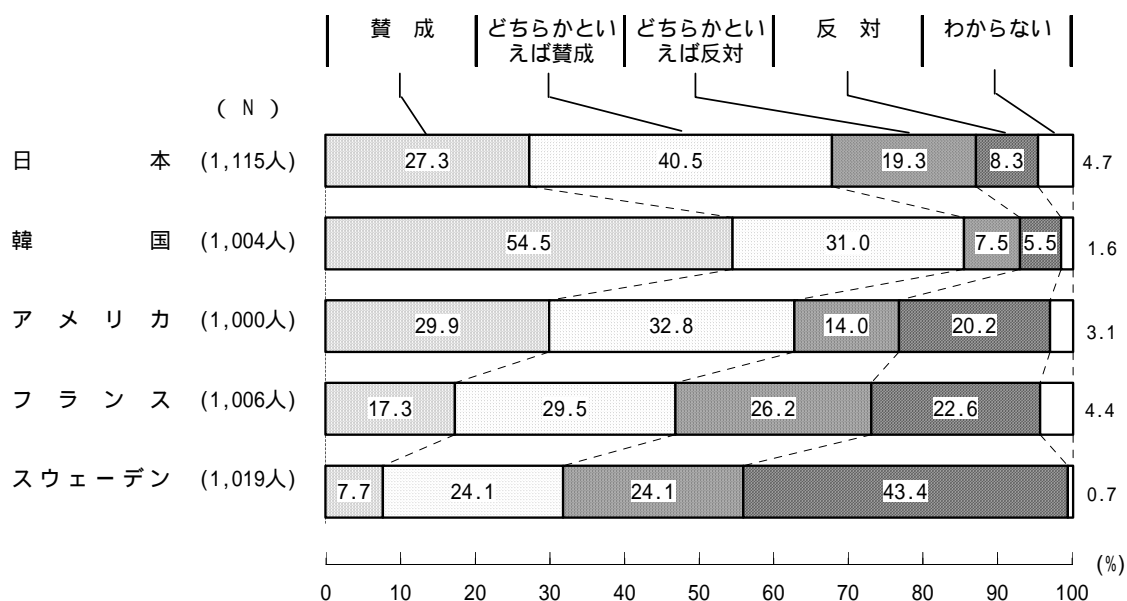
## (4) 仕事と家庭の両立について

### 1 いわゆる三歳児神話に対する考え方について

子どもが3歳くらいまでの間は、保育所等を利用せずに母親が家庭で子どもの世話をするべきだという意見に対して、どう思うか聞いたところ、日本では、「賛成」(27.3%)と「どちらかといえば賛成」(40.5%)を合わせた『賛成』が67.8%を占め、「どちらかといえば反対」(19.3%)と「反対」(8.3%)を合わせた『反対』(27.5%)を大きく上回っている。

各国比較でみると、日本以外では、アメリカ(62.7%)、韓国(85.5%)で『賛成』が、スウェーデン(67.5%)で『反対』がそれぞれ高くなっている。フランスは『賛成』(46.8%)と『反対』(48.8%)に意見が拮抗している。(図3-6)

図3-6



## 2 女性の理想のライフコース

育児と仕事との関係で、考えられる女性の理想の生き方を聞いたところ、日本では、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」(57.8%)が最も高く、次いで「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」(25.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では、日本と同じく「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」(61.2%)が6割を占めている。

フランスとアメリカでは、「出産するが、子どもの成長に応じて働き方を変えていく」と「出産を機に、いったん退職するが、子どもの手が離れたら働く」が、ほぼ同じ割合となっている。

スウェーデンでは「出産するが、子どもの成長に関係なく働き続ける」(61.1%)が6割を占めている。(表3 - 4)

表3 - 4

		(%)								
	全 体	結婚も出産もせず、働き続ける	出産しないで働き続ける	出産後、成長に関係なく働き続ける	出産後、成長に応じて働き方変える	出産を機に退職し手が離れたら働く	出産退職後は、育児に専念する	出産に関係なく、結婚後は働かない	その他	わからない
〔国 別〕	(N)									
日 本	1,115	0.4	0.4	7.8	57.8	25.8	3.9	1.3	0.4	2.2
韓 国	1,004	1.0	0.1	11.4	61.2	18.1	4.0	2.4	-	1.8
ア メ リ カ	1,000	2.8	1.2	15.0	32.3	34.6	7.3	0.6	2.4	3.8
フ ラ ンス	1,006	2.1	1.6	13.5	38.6	35.0	4.9	1.1	1.1	2.2
ス ウ ェ ー デ ン	1,019	1.1	0.9	61.1	14.1	18.0	0.1	0.2	2.6	1.9

## ( 5 ) 利用した制度

### 子育てにあたって利用した制度

子育て経験者に、子育てにあたって利用した制度を聞いたところ、日本では、「幼稚園」(39.1%)が最も高く、次いで「保育所(認可以外の保育所、保育園等を含む)」(29.4%)、「特にない」(26.1%)、「産前・産後休業制度」(18.6%)、「育児休業制度」(9.6%)の順となっているが、利用率はおおむね低くなっている。

各国比較で見ると、スウェーデンでは、「育児休業制度」(94.7%)、「保育所」(84.2%)、「父親休暇制度」(77.6%)、「産前・産後休暇」(68.4%)、「幼稚園」(68.0%)など、制度の利用率が5か国の中で最も高くなっている。

韓国では、日本と同じく「幼稚園」(46.6%)、「特にない」(31.5%)の割合が高く、「育児休業制度」(6.6%)の利用は少ない。

アメリカ(48.2%)、フランス(46.4%)では「産前・産後休業制度」が最も高く、5割を占めている。(表3-5)

表3-5

(いくつでも選択)

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日本 721	幼稚園 39.1	保育所 29.4	特にない 26.1	産前・産後休業制度 18.6	育児休業制度 9.6
韓国 606	幼稚園 46.6	特にない 31.5	産前・産後休業制度 15.5	保育所 11.3	育児休業制度 6.6
アメリカ 633	産前・産後休業制度 48.2	子どもの看護のための休暇制度 42.8	企業が従業員向けにつくった託児所 38.5	保育所 36.5	父親休暇制度 27.3
フランス 601	産前・産後休業制度 46.4	幼稚園 42.8	育児休業制度 41.7	父親休暇制度 18.1	保育所 17.3
スウェーデン 621	育児休業制度 94.7	保育所 84.2	父親休暇制度 77.6	産前・産後休業制度 68.4	幼稚園 68.0

### 3 子どもを生き育てやすい国かどうかについて

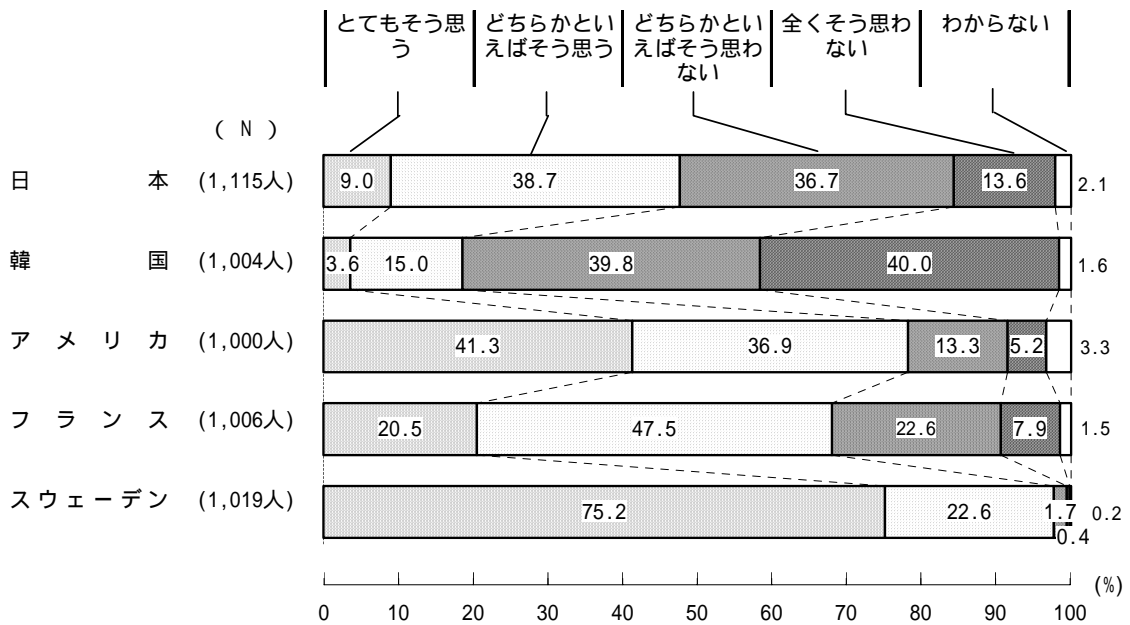
あなたの国は、子どもを生き育てやすい国だと思うか聞いたところ、「どちらかといえばそう思わない」(36.7%)と「全くそう思わない」(13.6%)を合わせた『そう思わない』は50.3%を占め、「とてもそう思う」(9.0%)と「どちらかといえばそう思う」(38.7%)を合わせた『そう思う』(47.6%)を上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『そう思わない』傾向は韓国(79.8%)のみである。

一方、『そう思う』が高いのは、スウェーデン(97.7%)、アメリカ(78.2%)、フランス(68.0%)の順であり、特にスウェーデンではほぼ100%に達している。

(図3-8)

図3-8



# 社会的支援について

## (1) 結婚・出産・育児を支援する政策についての意識

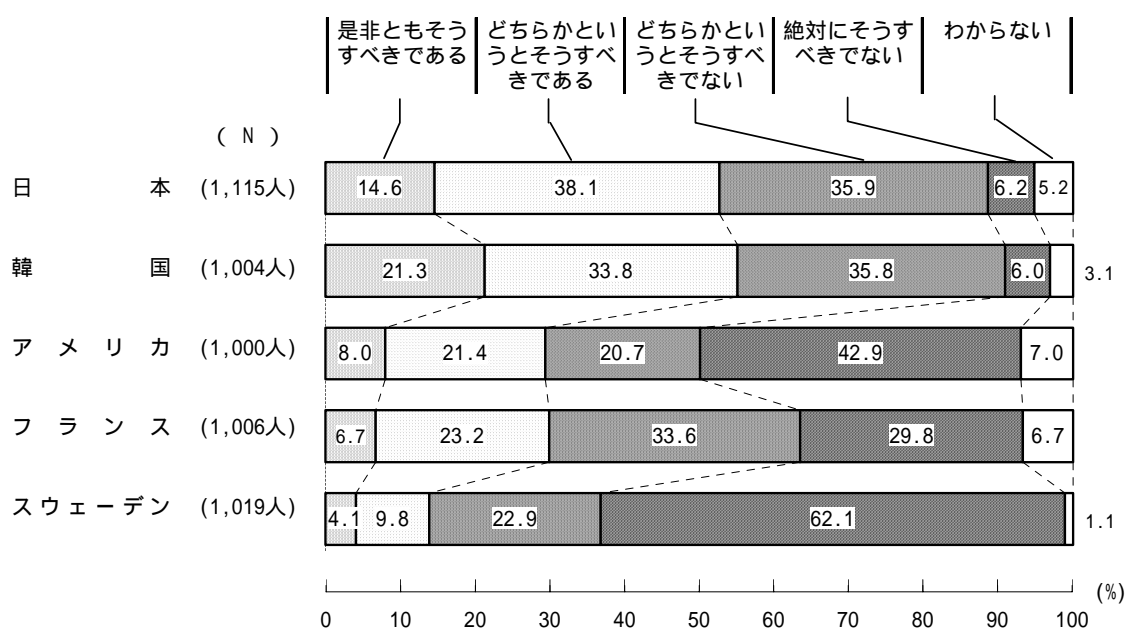
### 1 未婚者の結婚を促進する施策を国が実施すべきかについて

「未婚者の結婚を促進する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(14.6%)と「どちらかというそうすべきである」(38.1%)を合わせた『そうすべきである』は52.7%を占め、「どちらかというそうすべきでない」(35.9%)と「絶対にそうすべきでない」(6.2%)を合わせた『そうすべきでない』(42.1%)を上回っている。

各国比較でみると、日本と同じく『そうすべきである』が多いのは韓国(55.1%)のみとなっている。

特にスウェーデンでは、「絶対にそうすべきでない」が62.1%を占めている。アメリカとフランスでも、『そうすべきでない』が『そうすべきである』の約2倍となっている。(図4-1)

図4-1



## 2 未婚者の結婚を促進する施策として何が重要かについて

未婚者の結婚を促進する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「夫婦がともに働きつづけられるような職場環境の充実」(43.8%)が最も高く、次いで「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」(35.5%)、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」(31.9%)などとなっている。

各国比較でみると、アメリカ(39.4%)とフランス(34.2%)では、「賃金を上げて、安定した家計を営めるよう支援すること」が、韓国では「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」(49.9%)が、スウェーデンでは「雇用対策をもって、安定した雇用機会を提供すること」(36.2%)がそれぞれ最も多くなっている。(表4-1)

表4-1

(2つまでを選択)

(%)

国名	順位	1	2	3	4	5
日本	1115	夫婦がともに働ける職場環境の充実 43.8	安定した雇用機会を提供すること 35.5	安定した家計を営めるよう支援すること 31.9	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 29.3	結婚した方が有利となる税制を行う 18.8
韓国	1004	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 49.9	安定した雇用機会を提供すること 49.0	夫婦がともに働ける職場環境の充実 32.1	安定した家計を営めるよう支援すること 22.7	結婚した方が有利となる税制を行う 20.8
アメリカ	1000	安定した家計を営めるよう支援すること 39.4	結婚した方が有利となる税制を行う 30.8	夫婦がともに働ける職場環境の充実 24.1	安定した雇用機会を提供すること 21.7	結婚や住宅の資金貸与や補助を行う 15.0
フランス	1006	安定した家計を営めるよう支援すること 34.2	夫婦がともに働ける職場環境の充実 31.9	安定した雇用機会を提供すること 28.3	特になし 18.6	結婚した方が有利となる税制を行う 18.4
スウェーデン	1019	安定した雇用機会を提供すること 36.2	結婚した方が有利となる税制を行う 28.0	安定した家計を営めるよう支援すること 27.8	特になし 18.1	夫婦がともに働ける職場環境の充実 13.7

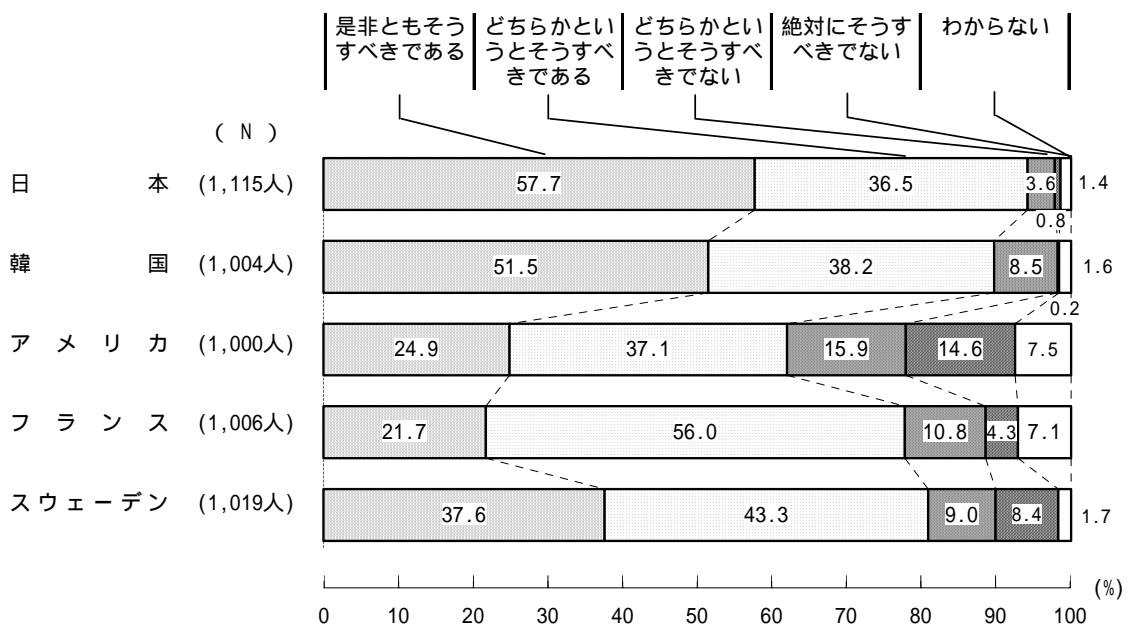


### 3 妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策を国が実施すべきかについて

「妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(57.7%)と「どちらかというそうすべきである」(36.5%)を合わせた『そうすべきである』は94.2%と高率を占め、「どちらかというそうすべきでない」(3.6%)と「絶対にそうすべきでない」(0.8%)を合わせた『そうすべきでない』(4.4%)を大きく上回っている。

各国比較でみても、いずれの国も日本と同じく『そうすべきである』が『そうすべきでない』を上回っている。(図4-2)

図4-2



#### 4 妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策として何が重要かについて

妊娠・出産時の身体的・経済的負担を軽減する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」(64.3%)が最も高く、次いで「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」(38.2%)、「産前・産後の休業期間を拡大すること」(30.3%)などとなっている。

各国比較でみると、日本と同じく「出産費用を助成することにより、自己負担をなくすこと」が最も多かったのは韓国で、アメリカ(49.4%)とフランス(46.7%)では「妊娠中の健康診断を無料で受けられるようにすること」が、スウェーデンでは「産前・産後の休業期間を拡大すること」(61.6%)がそれぞれ最も多くなっている。(表4-2)

表4-2 (2つまでを選択)

(%)

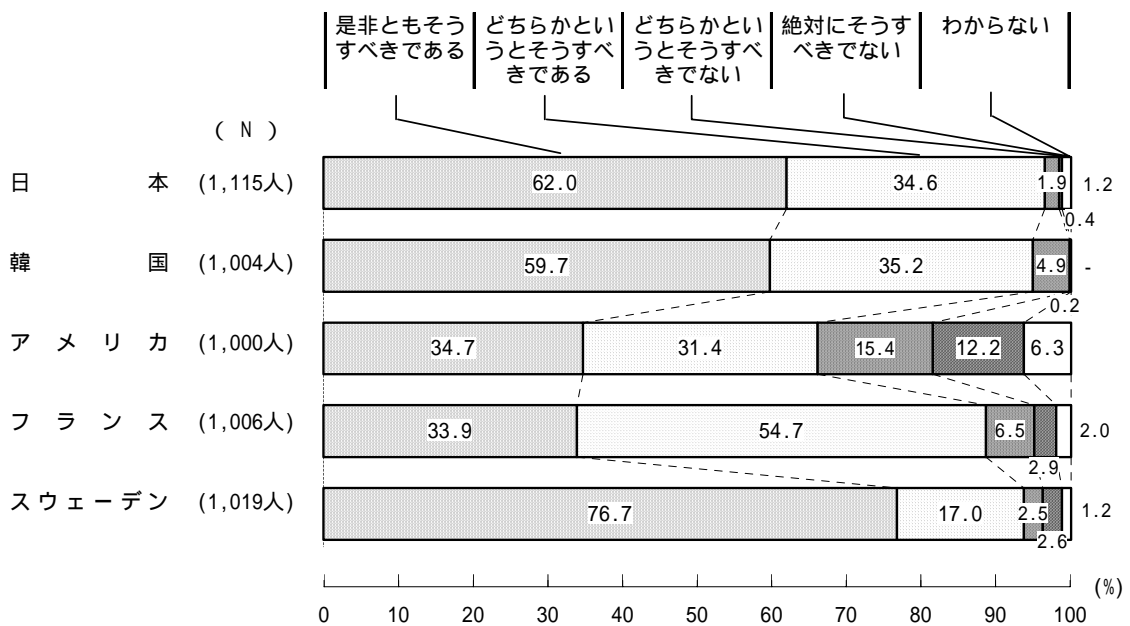
国名	順位	1	2	3	4	5
日本	1115	出産費用を助成し自己負担をなくす 64.3	妊娠中の健診を無料で受けられる 38.2	産前・産後の休業期間を拡大する 30.3	母子保健サービスを充実すること 25.1	不妊治療に対して助成すること 17.3
韓国	1004	出産費用を助成し自己負担をなくす 58.8	妊娠中の健診を無料で受けられる 42.5	産前・産後の休業期間を拡大する 40.7	母子保健サービスを充実すること 23.8	ヘルパーの訪問サービスの充実 15.0
アメリカ	1000	妊娠中の健診を無料で受けられる 49.4	出産費用を助成し自己負担をなくす 38.2	産前・産後の休業期間を拡大する 34.3	母子保健サービスを充実すること 11.3	ヘルパーの訪問サービスの充実 10.2
フランス	1006	妊娠中の健診を無料で受けられる 46.7	産前・産後の休業期間を拡大する 42.3	母子保健サービスを充実すること 24.1	ヘルパーの訪問サービスの充実 23.9	出産費用を助成し自己負担をなくす 15.7
スウェーデン	1019	産前・産後の休業期間を拡大する 61.6	妊娠中の健診を無料で受けられる 32.6	母子保健サービスを充実すること 26.2	出産費用を助成し自己負担をなくす 18.4	不妊治療に対して助成すること 16.9

## 5 育児を支援する施策を国が実施すべきかについて

「育児を支援する施策を国が実施すべきである」という考え方について、どう思うか聞いたところ、日本では、「是非ともそうすべきである」(62.0%)と「どちらかというそうすべきである」(34.6%)を合わせた『そうすべきである』は96.6%と高率を占め、「どちらかというそうすべきでない」(1.9%)と「絶対にそうすべきでない」(0.4%)を合わせた『そうすべきでない』(2.2%)を大きく上回っている。

各国比較でも、いずれの国も日本と同じく『そうすべきである』が『そうすべきでない』を上回っている。(図4-3)

図4-3



## 6 育児を支援する施策として何が重要かについて

育児を支援する施策として何が重要だと思うか聞いたところ、日本では、「児童手当など、子育ての経済的負担を軽減するための手当の充実」(67.5%)が最も高く、次いで「保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実」(55.5%)、「扶養控除など、子育ての経済的負担を軽減するための税制上の措置」(47.0%)、「教育費の支援、軽減」(42.8%)などとなっている。

各国比較でみると、韓国では「保育所の時間延長など、多様な保育サービスの充実」(60.6%)、「教育費の支援、軽減」(58.0%)などが多くっており、アメリカ(42.8%)、スウェーデン(59.9%)、フランス(51.3%)ではいずれも「フレックスタイムやパートタイム労働の導入など、柔軟な働き方を推し進めること」が最も多くとなっている。(表4-3)

表4-3

(5つまでを選択)

(%)

順位 国名	1	2	3	4	5
日本 1115	児童手当など、手当の充実 67.5	多様な保育サービスの充実 55.5	扶養控除など、税制上の措置 47.0	教育費の支援、軽減 42.8	フレックスなど柔軟な働き方の推進 39.7
韓国 1004	多様な保育サービスの充実 60.6	教育費の支援、軽減 58.0	児童手当など、手当の充実 52.2	企業のファミリーフレンドリー政策の充実 51.0	出産退職後の職場復帰の保障の充実 38.3
アメリカ 1000	フレックスなど柔軟な働き方の推進 42.8	多様な保育サービスの充実 34.7	企業のファミリーフレンドリー政策の充実 33.9	犯罪防止など地域における治安確保 31.9	児童手当など、手当の充実 29.9
フランス 1006	フレックスなど柔軟な働き方の推進 51.3	児童手当など、手当の充実 46.2	扶養控除など、税制上の措置 41.0	教育費の支援、軽減 39.4	育児休業を取りやすい職場環境整備 38.2
スウェーデン 1019	フレックスなど柔軟な働き方の推進 59.9	育児休業を取りやすい職場環境整備 44.1	児童手当など、手当の充実 40.8	出産退職後の職場復帰の保障の充実 37.9	犯罪防止など地域における治安確保 35.9

## 7 少子化問題に対する責任の所在について

出生率が低下して子どもの数が減るといふ、いわゆる少子化問題に対して、誰が一番責任をもって対応すべきだと思ふか聞いたところ、日本では、「国民ひとりひとり」が45.7%と最も高く、「国」(34.3%)がこれに続いている。

各国比較でみると、韓国以外は、いずれも日本と同じく「国民ひとりひとり」が最も多くなつており、韓国では「国」(62.9%)が「国民ひとりひとり」(30.8%)よりも多くなつている。(表4 - 4)

表4 - 4

	全 体	国民ひとりひとり	国	地方自治体	地域社会や市民団体	企 業	労働組合	その他	誰にも責任はない	わからない
〔国 別〕	(N)									
日 本	1,115	45.7	34.3	3.0	2.1	2.7	0.1	0.1	10.8	1.3
韓 国	1,004	30.8	62.9	0.7	0.9	1.0	0.1	0.4	1.7	1.6
ア メ リ カ	1,000	62.1	9.6	4.6	1.8	0.5	0.5	0.7	11.2	9.0
フ ラ ンス	1,006	48.9	30.8	2.0	1.1	0.6	0.2	0.5	12.3	3.6
スウェーデン	1,019	54.8	35.2	3.9	1.3	1.1	0.3	0.9	0.9	1.7

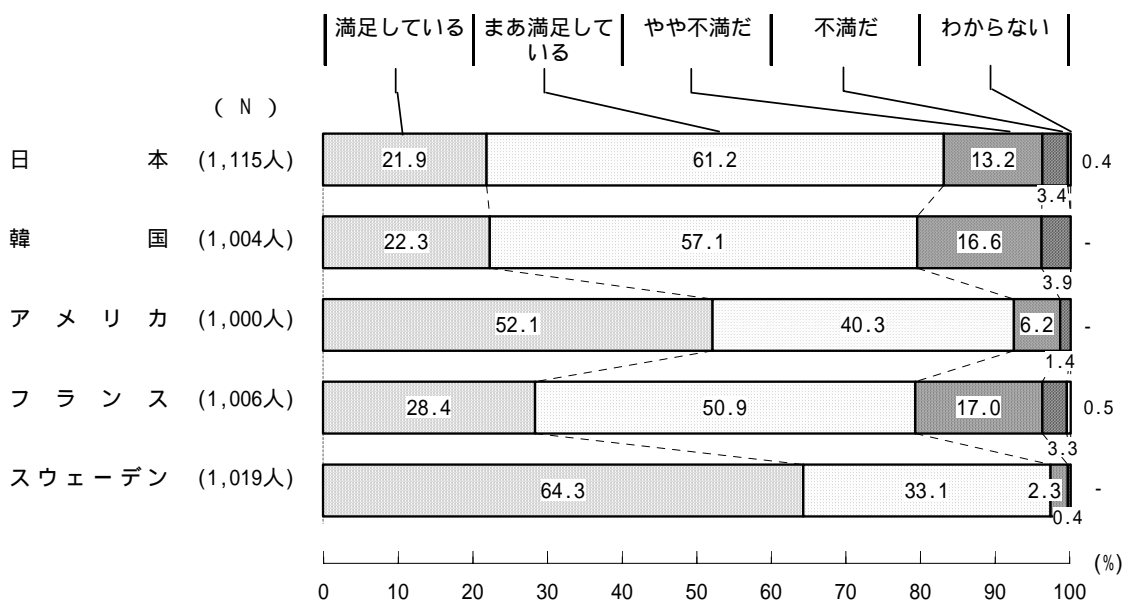
# 生活意識について

## 1 現在の生活の満足度

全体として、現在の生活にどの程度満足しているか聞いたところ、「満足している」(21.9%)と「まあ満足している」(61.2%)を合わせた『満足している』が83.0%と高く、「やや不満だ」(13.2%)と「不満だ」(3.4%)を合わせた『不満だ』(16.6%)を大きく上回っている。

各国比較でも、いずれも日本と同じく『満足している』が『不満だ』を大きく上回っている(図5-1)。

図5-1



## 2 自分自身の生活状況の見通し

自分の生活が、これから先、どうなっていくと思うか聞いたところ、「同じようなもの」が54.6%を占め、「良くなっていく」は27.6%となっている。

各国比較でみると、日本では「同じようなもの」が最も高かったが、他の国ではいずれも「良くなっていく」が5割以上から8割弱と最も高くなっている（図5 - 2）。

図5 - 2

